

学士課程教育の質的転換の関連資料

大学ポートレート（仮称）の整備について

1. これまでの検討状況と方向性

教育情報協力者会議における検討
・教育情報の活用・公表の促進方策を審議
・平成23年8月に「中間まとめ」

→大学コミュニティが自主的・自律的に運営する情報発信基盤として「大学ポートレート（仮称）」の整備を提言



データベースを用いた教育情報の活用・公表のための共通的な仕組みを構築

【趣旨】

- ・大学が教育情報を自らの活動状況を把握・分析することに活用。
- ・大学の多様な教育活動の状況を、大学教育に関係・関心を持つ国内外の様々な者に分かりやすく発信。
- ・基礎的な情報について共通的な公表の仕組みを構築し大学の業務負担軽減。

【運営】

大学と大学団体の参画により大学コミュニティが自主・自律的に運営する。

【内容】

- ・公表が義務化された教育情報、学校基本調査の基礎的な情報のほか、小規模大学や地方大学を含む各大学の特色・強みを表す。
- ・画一的なランキングを助長しないようしながら、分野などに着目し一定の範囲で比較可能なものにする。
- ・グローバルな教育活動を重視する大学の海外発信に活用できるようにする。

2. 整備に向けた検討状況

大学ポートレート（仮称）準備委員会が発足（2月17日）

「大学ポートレート」（仮称）の整備についての考え方

- ① 大学が、教育情報を自らの活動状況を把握・分析し、改革につなげるインセンティブ（IR（Institutional Research）の向上）。
・各大学の使命の実現にふさわしい教育課程・学生支援の改善や、学内組織等の整備に自主的に取り組む契機。
- ② 各大学の多様な教育活動を、国内外に分かりやすく発信。
・公表が義務化された教育情報や、大学が統計調査の際に収集する基礎的な情報。
・機能別分化の進展を踏まえ、大学の特色や強みを表示（画一的なランキングを助長しない）。
・グローバルな教育活動を重視する大学に関する情報を海外発信。
- ③ 各大学の業務負担軽減（基礎的な情報を共通に公表することで、大学の個別問合せへの対応を軽減）。

【当面の検討事項】

（基本的な枠組み）

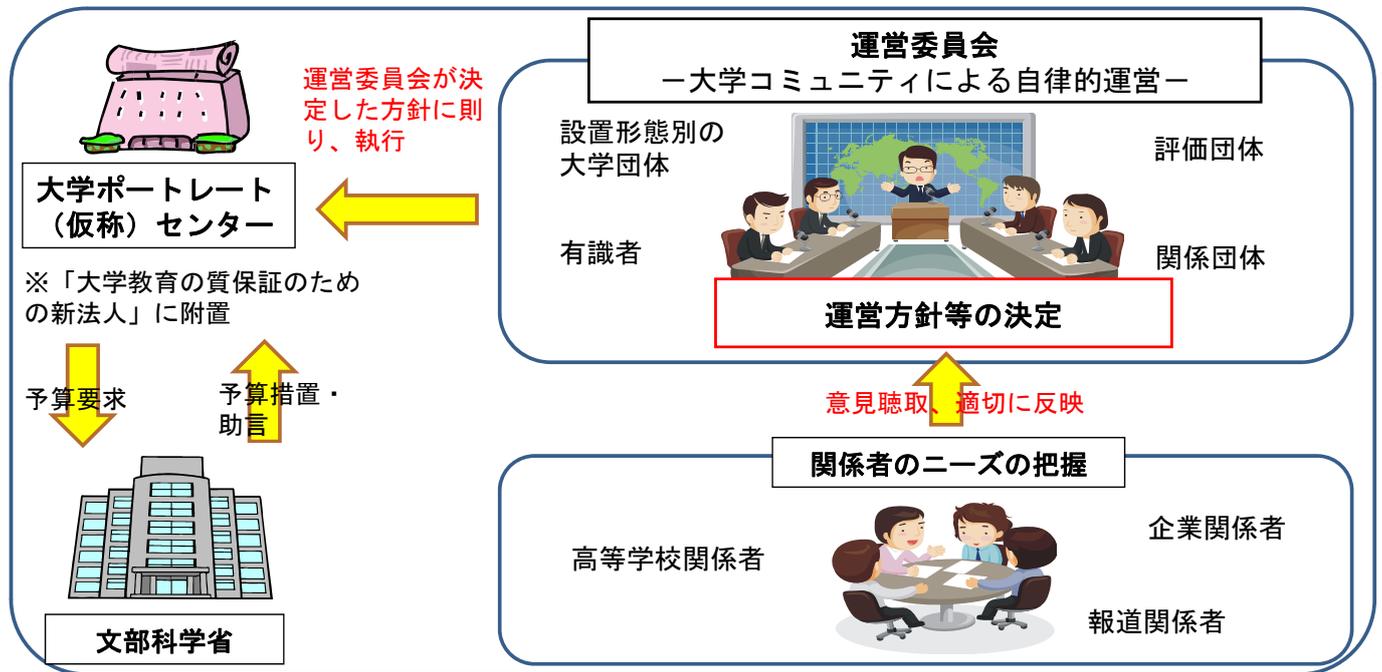
- ・大学ポートレート・センター（仮称）の運営体制
- ・私立大学については、私学事業団において、データベースが構築されていることを前提とした連携の在り方

（情報内容等）

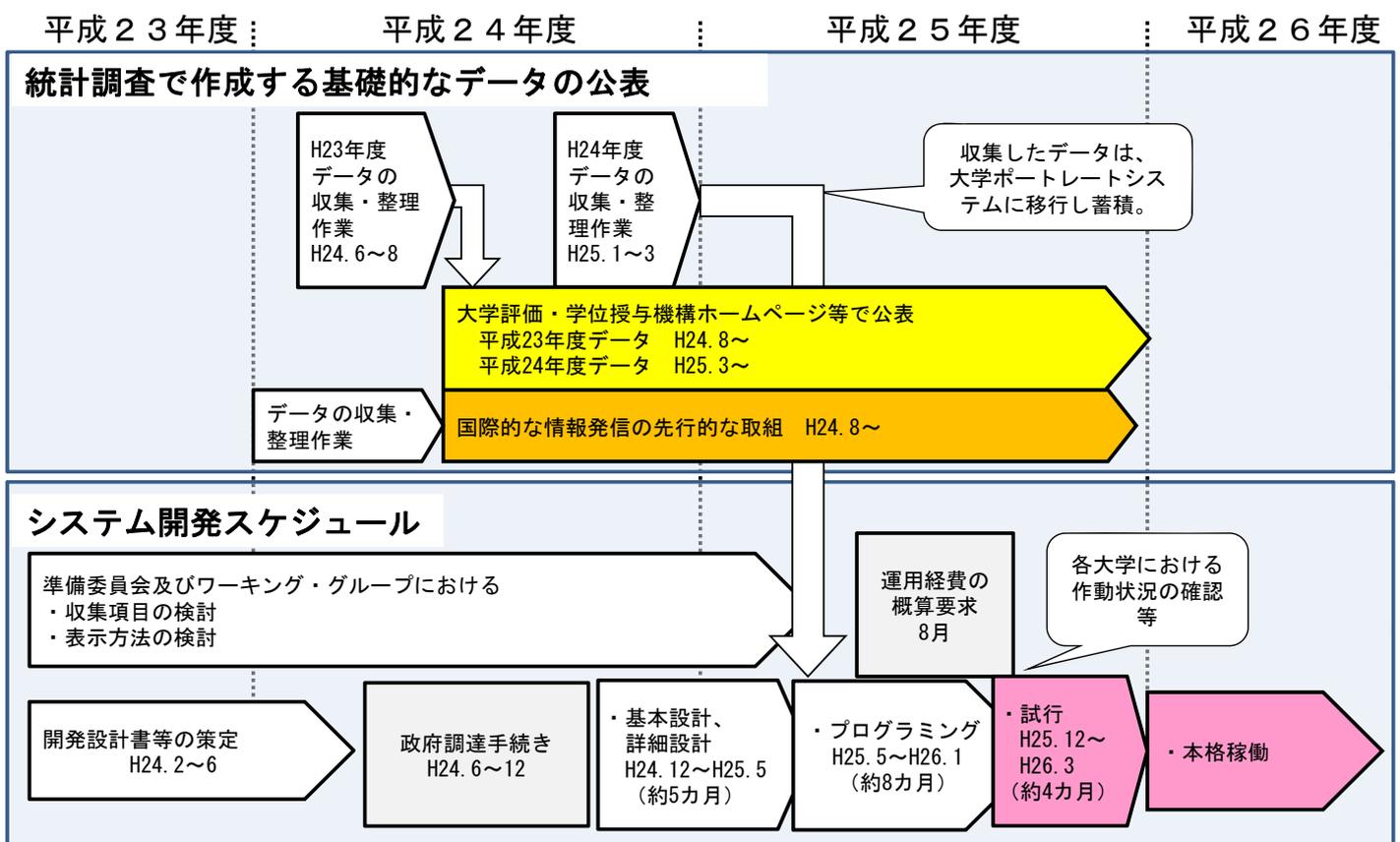
- ・大学間で共有する情報、社会に公表する情報の内容
- ・インターネットなどによる表示の方法
- ・認証評価との連携
- ・国や独立行政法人が行う各種調査の見直し

大学ポートレート（仮称）の運営体制等（案）

- 「大学ポートレート（仮称）」の運営方針は、設置形態ごとの大学団体、評価団体、日本私立学校振興・共済事業団等関係する事業を行う団体、有識者からなる「運営委員会」が決定。
- 運営委員会が決定した方針に基づく執行業務は、「大学教育の質保証のための新法人※」に附置する「大学ポートレート（仮称）センター」が担う。
※大学評価・学位授与機構と大学入試センターを統合し、廃止される国立大学財務・経営センターの業務を承継
- 私立大学については、日本私立学校振興・共済事業団で実施している情報収集と連携することにより、各大学の追加負担を回避する。



大学ポートレート（仮称）構想のスケジュール（案）



(参考) アメリカ “College Navigator” の概要

アメリカでは、連邦教育省の全米教育統計センターが、全米の大学の情報を検索・表示できる” College Navigator” を運営している。” College Navigator” は、全米の大学等を対象とした中等後教育総合データシステム(IPEDS)や、他の政府機関（連邦高等教育局、連邦学生支援局）のデータを基に構築されている。

- (1) 開始年：2007年
- (2) 参加大学：全大学
- (3) 運営：連邦教育省全米教育統計センター
- (4) 情報の入力：IPEDSや他の政府データシステム
- (5) 項目の内容：

<表示の例>



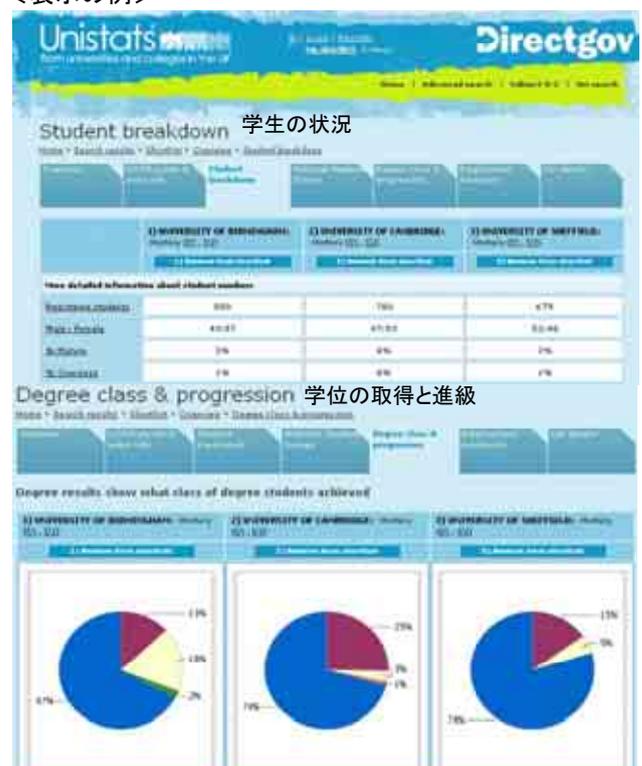
- ・概要：教員数、大学院生のアシスタント数 など
 - ・授業料等：推定費用(授業料、住居費)、平均奨学金取得額
 - ・経済的支援：奨学金や学生ローン(取得者数、割合)
 - ・卒業までにかかる経費
 - ・在校生の構成：入学者数、性別、人種、年齢
 - ・入試状況：志願者数、合格者数、入学者数、必要スコア
 - ・進級率、卒業率：2年在籍率、卒業率・転出率
 - ・分野ごとの学位授与状況：学士、修士、博士等
 - ・運動部活動：所属人数
 - ・第三者評価の結果：機関別、分野別
 - ・キャンパスの安全：キャンパス、学生寮での犯罪件数
 - ・教育ローンの債務不履行率
- (6) 表示等の方法：
 - ・検索：大学名、地域、学位の種類、学校のタイプ(公立、私立)
 - ・表示：4大学を並列させて表示可能(表示情報は限定)
 - ・リンク：大学のウェブサイトや元となるデータへリンク

(参考) イギリスの” Unistats” の概要

英国では、大学への公財政の配分を担うHEFCEと大学入試手続を担うUCASが、各大学が提供する教育コース（学士課程と大学院）ごとの情報を一元的に提供する” Unistats” を構築・運営している。

- (1) 開始年：2007年
- (2) 参加大学：全大学
- (3) 運営：大学への公財政配分団体(HEFCE)と大学入学手続を担う団体(UCAS)
- (4) 情報の入力：高等教育統計局(the Higher Education Statistics Agency (HESA))、統計情報の提供を担う団体(the FE data service)、HEFCEの各大学関係の機関・団体と各大学で実施
- (5) 項目の内容：

<表示の例>

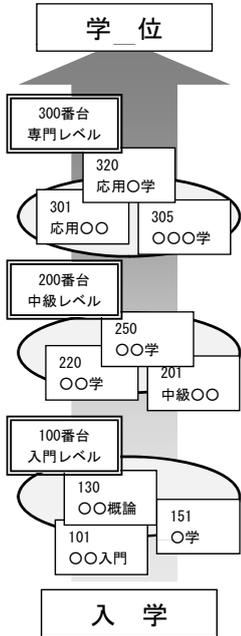


- 学生の入学時の情報
 - 入学時のスコア分布/入学前に保有する学位等
 - 学生の内訳
 - 学生数/学生の男女比/成人学生の割合
 - パートタイム学生の割合/留学生の割合
 - 学生の満足度
 - 学位取得と進級
 - 学位取得者の状況（ファースト、セカンドほか）
 - 卒業後の就職状況
 - 卒業6ヶ月後の就職状況/進学・就職等の割合
 - その他 QAAによる機関評価へのリンク
- (6) 表示の方法：3つのコースを選択し、項目ごとにグラフなどを用いて表示

ナンバリングについて (1)

ナンバリング、あるいはコース・ナンバリング。授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系的性を明示する仕組みで、①大学内における授業科目の分類、②複数大学間での授業科目の共通分類という二つの意味を持つ。
 対象とするレベル(学年など)や学問の分類を示すことは、学生が適切な授業科目を選択する助けとなるため、GPA制度やキャップ制と併用されることが望ましいと考えられる。
 また、科目同士の整理・統合と連携により教員が個々の科目の充実に注力できるといった効果も期待できる。

イメージ



国際基督教大学の例

- ・ 授業科目の学修段階や順序等の体系的性を明示
- ・ 学生がレベルや専門を勘案して授業科目を履修できるようにする

例: 英語プログラム(中級基礎) 読解と論文作法
 →ELP001(アルファベットと数字で表記)

<科目の分類>

全 学 共 通	語学教育	英語	E L P
	一般教育	人文科学系列	G E X
授 業 科 目	アメリカ研究		A M S
	美術・考古学		A R A

<科目の段階>

001-099	語学教育科目 (英語・日本語) 一般教育科目
101-199	メジャー基礎科目 全学共通初級科目
201-299	メジャー専攻中級科目 全学共通中級科目

早稲田大学国際教養学部の例

- ・ 専門分野を7つのクラスターに分類し、各クラスター毎に4段階のレベルを設定

例: Biological Anthropology(上級科目)
 →LE401(アルファベットと数字で表記)

<科目の分類>

基礎演習科目、入門統計学	G E
英語、第2外国語	C O
生命科学・生命倫理・環境科学・環境政策・地球科学・科学研究	L E
経済・ビジネス・経営・マーケティング	E B

<科目の段階>

100番台	基礎演習・入門統計学・英語科目・第2外国語
200番台	入門科目
300番台	中級科目
400番台	上級科目
500番台	ゼミ及び卒業論文

ナンバリングについて (2) 【アメリカの例】

Texas Common Course Numbering System (TCCNS)

テキサス州のカレッジとユニバーシティの、1・2年次における一般教養科目コースの科目履修において、学生の大学間移動を援助する目的で設計されたもの。
 このシステムに参加する機関において、他大学で修得した単位を自大学で修得した単位として認定される。
 テキサス州の110の高等教育機関が参加している。

Texas Common Course Numbering System

The Texas Common Course Numbering System (TCCNS) has been designed for the purpose of aiding students in the transfer of general academic courses between colleges and universities throughout Texas. Common courses are freshman and sophomore academic credit courses that have been identified as common by institutions that are members of the common course numbering system. The system ensures that if the student takes the courses the receiving institution designates as common, then the courses will be accepted in transfer and the credit will be treated as if the courses had actually been taken on the receiving institution's campus.

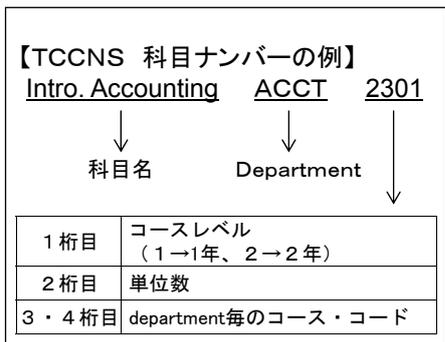
The table below lists the courses Texas A&M University has identified as common and their TCCNS equivalents. Before using this table students should be sure that the institution they attend employs the TCCNS.

This table is revised quarterly in January, March, June and September. The most recent version may be obtained from the Office of Admissions and Records.

The current version of this document may be found on the Office of Admissions and Records Web site at www.tamu.edu/admissions/undergrad/tccns.shtml.

各大学のナンバリング	Texas A&M Course	TCCNS Equivalent Course
	ACCT 229	Intro. Accounting ACCT 2301
	ACCT 229	Intro. Accounting ACCT 2401
	ACCT 230	Intro. Accounting ACCT 2302
	ACCT 230	Intro. Accounting ACCT 2402
	AGEC 105	Intro. to Agri. Economics AGRI 2317

出典: Texas A&M University 09-10 Undergraduate Catalog



TA (ティーチングアシスタント) ・ SA (スチューデントアシスタント) について

- 優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対する助言や実施・実習等の教育補助業務を行わせ、大学院生の教育トレーニングの機会を提供するとともに、これに対する手当を支給し、大学院生の処遇改善の一助とすることを目的としたもの。
- また、大学院でなく、学士課程の学生を教育の補助業務に携わらせる場合、TAとは区別して スチューデントアシスタント(SA)と称することが多い。

北海道大学の全学教育TAの例

(採用資格)

- ・大学院に在籍する優秀な学生
- ・全学教育科目の実験、実習、演習等において、優れた指導能力を有するもの

(現状)

- ・約1000人

(職務内容)

- ・学部学生又は修士課程学生に対する実験、実習、演習等の教育補助業務
- ・勤務時間は、週30時間を超えない範囲で、当該学生の研究指導、授業等に支障が生じないよう配慮して、選考部局の長が定める

(TA研修)

- ・授業科目の担当教員による指導のほか、事前オリエンテーションを義務づけ

- ・目的 (1) 大学教育の基礎を理解する
- (2) 全学教育の趣旨を理解する: 目的、意義、全体での位置づけ
- (3) 基礎的な教育技術、心構え、教育理論を理解する
- (4) 担当する科目の内容と教授法を理解する
- (5) TA相互の交流をはかる

- ・研修プログラム(14の分科会に分けて研修を実施)

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 一般教育演習 | ⑥ 英語Ⅱオンライン授業 |
| ② 一般教育演習/フィールド | ⑦ 英語Ⅱ以外の英語の授業 |
| ③ 講義 | ⑧ 初習外国語(中国語以外) |
| ④ 論文指導 | ⑨ 中国語 |
| ⑤ 情報学 | ⑩ 文系基礎科目 など |

- ・このほか、大学院の授業科目として、「情報学教育特論」「大学院生のための大学教員養成(PFF)講座」も開設。

千葉商科大学のSA制度の例(TAに加えて実施)

(選抜する際の具体的な観点)

- ・SAは、原則として本学の学部在籍し、当該科目の単位を修得済みで、かつ、その科目の成績が優秀であることが望ましい。

(人数)

- ・商経学部、政策情報学部、サービス創造学部の各学部が定める(本年度は、春356人、秋285人)

<政策情報学部の例>

- ・TA及びSAの利用を申請できる授業科目は、次の条件のいずれかを満たすものとする。

- (1) ツール科目群又はコンピュータ実習室を使用する科目、あるいはそれに準ずる特殊な教室を使って実習形式の授業を行う科目で、1コマあたりのTA及びSAの人数は、原則として次の通りとする。

- ① 履修者10名以上につき1名の採用とする。
- ② 履修者20名以上の場合、必要であれば1名を追加申請できるものとする。

- (2) 履修者が180名以上の科目

(SAの研修やマニュアル)

- ・TA・SAの採用を希望する学生に、「TA及びSAの申請に当たって」を配布。

(学生への効果)

- ・TA・SAは、主としてコンピュータを使った実習・演習形式の授業や外国語の授業が多く、履修学生の進捗状況や習熟状況などが異なるため、TA・SAが個別に対応し、履修学生の授業の理解度やスキル向上につながり、きめ細やかな教育が可能。教員からは、SAを採用した結果、途中授業放棄をする学生数が減少したという報告もある。

図書館の機能強化について

千葉大学 (アカデミック・リンク・センター) の事例

「学習とコンテンツ(学習のための多様な資料群)の近接による能動的学習」を実現するため、附属図書館を中核として、以下の3つの機能を提供。

・アクティブ・ラーニング・スペース

学生が、様々な資料群、情報通信技術あるいは学修を支援する人々(教員、図書館員、学生同士)を最大限活用しながら、グループや個人で学修を行うのにふさわしい場、自らの学修の成果を公表する場。

・コンテンツ・ラボ

授業の事前事後学修やさらにその主題について掘り下げて学修するために有益な図書類やWebサイトの案内機能の強化、授業で使う教材の電子化、授業そのものの録画などを行い、これらの学修に資する資料群を円滑に提供する仕組みを構築。

・ティーチング・ハブ

授業支援システムの運用支援とともに、教材の電子化や情報通信技術の教育への応用等のためのファカルティ・ディベロップメント(FD)、アクティブ・ラーニング・スペースで活動するスチューデント・アシスタント(SA)の育成などを行う。



上智大学の事例

複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学修スタイルを可能にする「場」と情報資源を使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスを提供するもの(「ラーニング・コモンズ」として、図書館を改修。

・図書館フロアの改修

- 多目的学習スペース(PC利用エリア、グループ学習エリア、プレゼンテーションエリア)を開設。
- あわせて、館内の無線・有線LAN環境を整備

・ライティング指導

- レポート・論文作成指導を行うライティングセンター機能の整備や、その際にTAとして大学院生の活用することなどを検討中。

ラーニング・コモンズ利用案内



学修成果の把握について (1)

【アセスメント・テスト】

- 学修成果の測定・把握の手段の一つ。ペーパーテスト等により学生の知識・能力等を測定するための取組の総称、標準化テストとも呼ばれる。米国等で導入されているCLA、MAPP等がこれに当たる。
- 米国で導入されているアセスメントテストは、一般に大学内の低学年・高学年双方が受験し、その点数の推移等で大学の教育効果を把握する目的で導入されており、学生個々人の能力を判定するものとは異なる。

CLA (The Collegiate Learning Assessment)

目的: 大学の教育力によりどれほど変容したか(付加価値)の比較測定

実施機関: 教育支援協議会 (Council for Aid to Education)

内容: (構成)

作業課題(与えられた資料を活用し、実生活の活動に係る課題を完遂する。)

分析的課題(「議論の構成」: 問題に対する意見を学生に提示して、それに対する賛否の理由を説明させる、「批評・討論」: 他人の論述を斟酌し、その結論の適切さを評価する。)

(評価する能力)

文章力(Written Communication)

批判的思考力(Critical Thinking)

問題解決力(Problem Solving)

分析的論理付け能力(Analytic Reasoning)

解答形式: 記述式

実施方法: 1機関あたり150人程度のサンプル調査
第1学年時と最高学年時において受験し、学生の付加価値を機関ごとに評価

実施規模: 参加機関数約750機関で約50万人

○問題例

【作業課題】(Performance-task)

受験者を企業の社長アシスタントだと仮定して、会社専用機の購入について資料を元に検討する。

「航空事故の新聞記事」「連邦政府の単一エンジン搭載機の事故報告書」「航空機販売会社の営業担当者からのe-mail」「メーカー作成の機体性能データ表」「パイロットによる当該機種と他機種の比較記事」「180型と250型のカタログ」

【分析的課題】

(1)Make-an-Argument(議論の構成)

関連する例や理由を示しつつ、特定の主張を補強するような論を述べよ。

・例題「政府は犯罪の処理よりも、犯罪の抑止に資金を費やすべきだ」

(2)Critique-an-Argument(批評・討論)

特定の主張に関して、肯定あるいは否定の立場から論を述べよ。

・例題「ある定評のある教育系ジャーナルに小学生の肥満を研究対象とした2年間の調査結果が掲載されていた。この研究では、A小学校の5歳から11歳の50人の小学生がサンプルとなっている。

調査前に、A小学校の付近にファストフードレストランがオープンした。2年後、サンプル対象の子どもたちは、平均体重と比べて肥満傾向であった。

この結果を把握していた、B小学校の校長は、学校近くにファストフードレストランがオープンすることに反対することで、自身の小学校の肥満問題に取り組むもうと考えた。

出典: 平成20年度文部科学省委託事業「学生の大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究」報告書
CLAホームページ(<http://www.collegiatelearningassessment.org/>)

MAPP (Measure of Academic Proficiency and Progress)

目的: 一般教育の知識・技能の評価、プログラムの改革

実施機関: 教育テストサービス(Education Testing Service)

内容: 人文科学、社会科学、自然科学の各分野の文章を読み解答する。

(評価する能力)

批判的思考力(Critical Thinking)

読解力(Reading)

文章力(Writing)

数学的能力(Mathematics)

解答形式: 多肢選択式

実施方法: 大学が指定する第1~4学年の学生が受験し、学生の付加価値を機関ごとに評価

実施規模: 参加機関数約400機関で約50万人

○問題例

【読解力】

社会科学問題からの文章を読んで問題に答える。

(例題) 出題文14行目の「Community of disease」によって、著者は何を意味しようとしているのか。以下の最も適切なものを選び。

(A)ある社会で頻繁に発生する病気に対して、その社会の構成員は抗体を産出させているのが一般的である

(B)同じ社会に所属している構成員だけがある種の病気に罹りやすい

(C)世界の多様な民族が同じ病気に感染することにより、それら民族間に関係が構築される

(D)病気がもたらす壊滅的な影響は、その病気に苦しむ人々の間に、連帯に繋がる要因を形成する

※ベネッセコーポレーション 平成20年度文部科学省委託事業「学生の大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究」報告書
ETSホームページ(<http://www.ets.org/proficiencyprofile/about>)

学修成果の把握について (2)

【間接評価】

- 学生の行動や満足度に関するアンケートを基本とした調査。複数大学の学生を対象に共通の質問項目で調査を実施することにより、学部間・大学間の状況比較や、学年進行に伴う変化の把握、学内の他のデータ(成績等)と組み合わせて各種の分析に役立てるために開発されたもの。
- 米国ではフルタイム・パートタイムの別、幅広い年齢層、4、600以上の高等教育機関それぞれの目的・性格の違い等を考慮し、「学生の行動にどのような変容を及ぼしたか」という観点での行動調査が行われるようになった。(NSSE、CIRPなど)

NSSE (The National Survey of Student Engagement)

目的:学修過程の把握とそれによる教育改善への活用

実施機関:インディアナ大学

内容:授業内外における活動、授業内における学修成果、教員や他の学生との関わりなど、50問以上の質問が設定されている。

1年次と4年次の比較による変容度調査や、他大学との比較、学内の成績データとの比較分析による行動要因と成績の関連の属性分析等に使用される。

実施方法:インターネット等によるアンケート調査

実施規模:約750機関で約50万人

○調査項目

1. 学生の経験を問うもの。様々な学習機会等について、「非常に多い」「多い」「たまたま」「ほとんどない」の4択で答えさせる。
 - ・授業中の質問や議論への参加
 - ・クラス内でのプレゼンテーション
 - ・宿題や提出課題に対し、提出前に手直しをする機会
 - ・他の学生と共同して行うクラス内/クラス外のプロジェクト
 - ・授業以外での教員との共同活動(委員会やオリエンテーション運営等)など
2. 在学中に、授業により以下のどのような能力が伸びたと感じるか(「非常に伸びた」「伸びた」「多少」「ほとんど伸びない」の4択)
 - ・記憶力
 - ・分析力
 - ・統合力
 - ・判断力
 - ・受容力
9. 1週間で、以下の行動にどれくらい時間を使ったか(時間数を回答)
 - ・授業への準備時間
 - ・キャンパス内/外でのアルバイト
 - ・課外活動への参加
 - ・娯楽
 - ・家族とともに過ごす時間
 - ・習い事

※NSSEホームページ(<http://nsse.iub.edu/>)より作成。

学修成果の把握について (3)

【我が国における事例】

- 我が国では、各大学、大学間連携、独立行政法人等により、学生調査が行われており、これらの取組を活用しつつ、我が国における効果的な手法等を開発していくことが課題となっている。

4 大学連携による教学 I R

目的:大学の教育成果の把握

実施機関:同志社大学、北海道大学、大阪府立大学、甲南大学

内容:学修状況(学修経験、能力に関する自己認識)、英語運用能力、教育環境・大学生活

実施方法:Web等を用いたアンケート調査

第1学年の学生を対象

実施規模:4大学で約5千人

JCIRP (Japanese Cooperative Institutional Research Program)

目的:学修過程の把握とそれによる教育改善への活用

実施機関:同志社大学(科研費プロジェクト)

内容:学生の満足度、学修行動・学修習慣

実施方法:アンケート調査

実施規模:大学生調査 16機関約6千名(平成19年度)

新入生調査 164機関約2万人(平成20年度)

短期大学生調査 9機関約2千人(平成20年度)

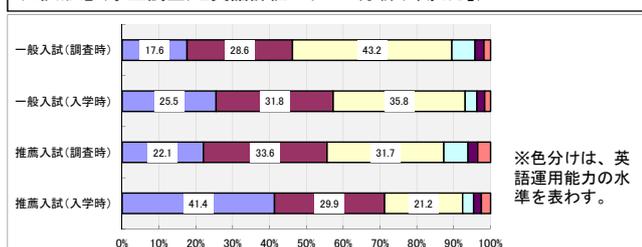
(平成21年現在、3調査でのべ9万人が参加)

【分析の例】

・英語運用能力の評価

各大学の学生の英語能力を共通指標を用いて評価することで、学年進行による変化や、学生の経験の影響等を探る取組を行っている。

入試形態(学生調査)と英語評価のクロス分析(「聞く力」)

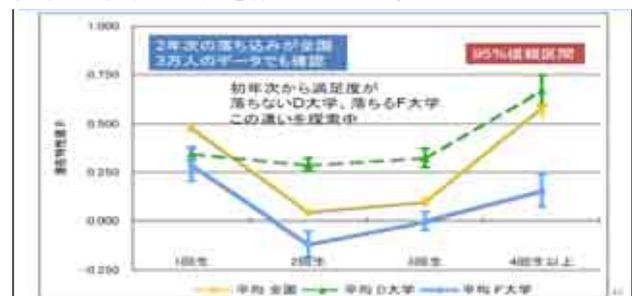


平成21年度採択文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「一学年調査2010年」調査報告書(同志社大学、北海道大学、大阪府立大学、甲南大学)から作成。

【統計分析の一例】

・各種の教育統計理論や数値調整を行い、データ分析を実施。

「学生の満足度」を年次で分析しており、年次で推移すること、大学によりその状況が異なることなどを明らかにしている。



同志社大学「JCIRPのご案内」、日本教育社会学会発表資料「JCIRPにみる大学生の諸相」から作成

ルーブリックについて (1)

- 目標に準拠した評価のための基準の作成方法であり、学生が何を学修するのかを示す評価規準と学生が学修到達しているレベルを示す具体的な評価基準を示すマトリクス形式での評価指標。
- 記述により達成水準等が明確化されることにより、パフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある。
- コースや授業科目、課題(レポート)などの単位で設定することができる。

○課程についてのルーブリックの例

関西国際大学 コモンルーブリック(リサーチ) 2年制秋学期～(上位学年用)

	3	2	1	0
テーマのたて方 (調査目的の設定)	独創的で、明確なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	明確で、実現可能なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されているが、一般的な仮説や調査項目しか示されていない。
これまでに明らかにされている知見の活用	信頼できる様々な情報源から、これまでに明らかにされた知見や課題を、自分が明らかにしようとしている内容に関連づけて活用している。	信頼できる複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を、リサーチに関連づけて活用している。	複数の情報源からこれまでに明らかになった知見を示している。	複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を、部分的にしか示していない。
研究方法と分析の視点	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしいいくつかの研究手法を用い、明確な分析の視点を示している。	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしい研究手法を用い、分析の視点を示している。	目的とテーマに沿った研究手法を用い、分析の視点を示している。	研究方法と分析の視点について、必要なポイントしか捉えられていない。
分析	焦点に沿ってリサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・重要な型(パターン化)の発見など様々な観点から検討している。	リサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・パターン化など様々な観点から検討している。	リサーチで得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何らかの法則性を検討している。	リサーチで得られた情報をまとめることに終始している。
結論	リサーチから明らかになったことについて整理し、専門基礎知識(自分の専門分野の概念や枠組み)を効果的に用いて、論理的に説明できている。	リサーチから明らかになったことについて整理し、専門基礎知識を用いて論理的に説明できている。	リサーチから明らかになったことについて記述し、専門基礎知識をある程度用いて説明できている。	リサーチから明らかになったことについての記述しかできていない。

ルーブリックについて (2) 【アメリカの例】

○科目についてのルーブリックの例

米国ポートランド州立大学 「SBA490-Research Foundations」のLiterature Review ルーブリック

TASK DESCRIPTION: You are to find at least 10 research articles related to your Senior project topic. This paper will lead to the development of your Senior research project to be completed in SBA 491.

	Exceeds Expectations(4)	3	2	Needs substantial improvement(1)
Problem	Introductory paragraph describes the problem clearly. Introduction engages reader with problem. Many details and descriptive words used. Thesis is clear in first few paragraphs.	Problem clearly stated. Attempt at engaging the reader, but not persuasive. There is clear in first few paragraphs.	Problem was minor subject in course. Vague description of problem. Weak, not persuasive thesis statement.	Problem not relate to any ideas in course. No clear introduction to paper, just starts with literature review.
Research articles	All peer-reviewed references At least 10 references All research Variety of journals used	Mostly peer-reviewed 8-10 references Mostly research articles.	A few peer-reviewed 5-8 references Some books included	Mostly books and magazines used. 1-5 references
Flow	Arranges ideas from articles in a logical way. Judicious use of information from articles to make case. Organization of ideas from articles evident. Transition sentences used. Paragraphs have topic sentences.	Mostly logical flow from idea to idea. Organization evident with some gaps. Some sections not have transition sentences. Paragraphs have topic sentences.	Difficult to follow line of thinking from paragraph to paragraph. Careless use of information from articles. Paragraphs lack topic sentences & transitions.	Difficult to follow line of thinking. Ideas from articles not in writer's own words. Choppy to read aloud. Paragraphs lack topic sentences & transitions.
Conclusion	Synthesizes key ideas from literature reviewed. Relates closely to problem through thesis statement	Synthesizes key ideas from literature reviewed. Inferred link to problem.	No synthesis. Problem not mentioned.	No synthesis. Problem not mentioned.
Writing conventions	Perfect APA(※) formatting in text and in reference list. 1 grammatical error.	2-3 minor errors in APA formatting. 2-3 grammatical errors.	Noticeable lack of attention to APA. Grammatical errors interfere with reading.	No APA formatting. Many grammatical errors on every page make reading difficult.

(※)APA: American Psychological Association